

ビジネス情報科 3年A組

教 科	商 業	科目(単位)	プログラミング (2単位)
使用教科書	最新プログラミング オブジェクト指向プログラミング (実教出版)		
授 業 形 態	通常授業 ・ 分割授業 ・ TT		

※分割授業とは、クラスを少人数クラスに分割して授業を行うことを意味します。

※TT (チームティーティング) とは、複数の教師がチームを組んで指導にあたることを意味します。

1 科目の目標

<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようとする。</p> <p>(2) 企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとする。</p> <p>(3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組もうとする。</p>
--

2 科目の内容と授業の進め方

<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングの基礎的な技法の知識を学び、一連の手順に沿ってプログラムを作成できるように、丁寧に説明します。 ・課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含め、必要な情報を主体的に収集、判断、表現、処理、創造し、受け手の状況などを踏まえて発信、伝達できる能力を、実例を多く取り入れた学習や課題を通して学習します。

3 学習の方法

<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングの実習を通して、基本的な文法やアルゴリズムの基礎をしっかりと学び、さまざまな実習問題を通してソフトウェア開発の基礎的な技術を身に付けます。 ・ノートを用意すること。試験の前には、授業内容を振り返ることができるノート作りを心掛けて授業を展開していきます。 ・プリントを随時配付します。(はさみ、のり、色ペンを使って、工夫したノートを作成すること。)

4 課題・補習について

<ul style="list-style-type: none"> ・ノート(プリント)を定期的に点検します。未提出は減点対象となります。 ・実習課題が終わらない場合は、期限までに放課後等を使って終わらせます。 ・定期考査で点数が低い場合や、実習の進捗が遅れている場合には、個別補習を行います。

5 この授業で取得可能な資格(検定試験)

<ul style="list-style-type: none"> ・全商情報処理検定 プログラミング部門 1級・2級

6 観点別学習状況の評価のポイント

知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<p>プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。</p>	<p>企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。</p>	<p>企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p>

ビジネス情報科 3年A組

教 科	商 業	科目(単位)	プログラミング (2単位)
-----	-----	--------	---------------

7 年間の学習計画

月	単 元 名	学 習 の 内 容	評価方法 (課題等)
4	4章 情報システムの開発演習 1節 Webページ作成の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・ Web ページ作成の基礎について理解し、ブラウザでの表示や公開の方法を理解する。 ・ C S S の特徴を理解し、基本的な技法を学び、ブラウザで表現する方法を理解する。 ・ P H P の手法を学び、動的なホームページを作成する力を身に付ける。 ・ D B M S の特徴を理解し、P H P と M y S Q L を利用する技術を身に付け、ブラウザで表現する力を身に付ける。 ・ スマートフォンなどで動作するモバイルアプリケーションの開発方法について理解する。 ・ 表計算ソフトウェア組み込みの手続き型言語を利用したプログラミングを活用した開発方法について理解する。 <p>全商情報処理検定 プログラミング部門 1級・2級</p>	行動観察 小テスト 実習成果物
5	2節 スタイルシートの活用		前期中間考査 課題(振り返り)
6	3節 P H P の活用		
6	4節 データベースとの連携		行動観察 小テスト 実習成果物
7	5節 携帯型情報通信機器用ソフトウェアの活用		
8	6節 手続き型言語の利用		
9		前期期末考査 課題(振り返り)	
10	5章 ハードウェアとソフトウェア 1節 データの表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンピュータ内部の情報の表現方法について理解し、2進数、10進数、16進数の特徴を理解する。 ・ コンピュータの五大装置の機能やその特徴を理解する。 ・ 情報システムの構成および性能や障害対策について理解する。 ・ システムソフトウェアとアプリケーションの役割、オペレーティングシステムの目的について理解する。 ・ 情報セキュリティの目的やリスク、実現するための技術について学び、脅威に対する対策方法やリスクの回避をはかるための方策について理解する。 <p>全商情報処理検定 プログラミング部門 1級・2級</p>	行動観察 小テスト 実習成果物
11	2節 ハードウェアの機能と動作		後期中間考査 課題(振り返り)
12	3節 ソフトウェアの体系と役割		
1	4節 情報セキュリティ		行動観察 小テスト 実習成果物
2			